



展覧会概要

鷹狩は鷹を用いて獲物を捕らえる狩りで、日本でも古代から江戸時代にかけて、天皇や貴族、武士の間で好んで行われました。鷹狩は単なる狩りに留まらず、遊興ゆうきょうでもあり、権威の象徴でもあり、儀礼的な側面も持つという様々な意味を持ち合わせていました。こうした華やかな側面が注目される一方、狩りができるようになるまで鷹を育て上げる技術や鷹狩を行う場所の管理なども必要で、鷹匠たかじょうや村の人々などがその役割を担っていました。

本展覧会では、鷹狩の様子を描いた華やかな屏風や巻物、鷹狩の道具を中心にご覧いただきつつ、尾張藩の鷹狩に関わった人々や場にも焦点を当て、美術作品と歴史史料の双方から鷹狩の世界を紐解いていきます。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 鷹狩
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2022年11月12日(土)～12月15日(木)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(年末年始：2022年12月16日(金)～2023年1月3日(火))
- ◆観覧料 一般1,200円 高・大生700円 小・中生500円
※20名様以上の団体は一般1,000円 高・大生600円 小・中生400円
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆作品数 48件予定
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫

プレス内覧会

2022年11月11日(金)

プレス内覧会：午後1時30分～3時 受付：午後1時15分 会場：徳川美術館 講堂

展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材。

- ・内覧会開催日に限らず、取材は随時承ります。
- ・動画撮影につきましては開館時間外も対応いたしますので、ぜひお気軽にご相談ください。

第一章 鷹狩の世界

鷹狩は鷹を用いて獲物を捕らえる狩りです。日本では古代より、天皇や貴族、武士の間で楽しまれていました。古代において鷹狩は天皇や貴族の遊興であり、秋と冬を中心に行われていました。中世以降、武士が台頭してくると武士が行う狩りとなり、武芸の一つとしても重視されていきました。江戸時代になると藩主が巡見や移動の途中で鷹狩を実施していたこともあり、必ずしも秋と冬にのみ行われていたわけではなかったようです。また鷹狩は和歌の世界でもしばしば取り上げられ、狩りの様子ばかりではなく、掛詞をうまく使いながら様々な要素が詠み込まれていました。



鷹狩図屏風 六曲一双の内 左隻
齊藤芳克氏寄贈

第2章 捕らえられた鳥、食される鳥

現在、鳥料理というと鶏を思い浮かべますが、江戸時代以前には鶴や雉子・雁など多種多様な鳥が食されていました。鷹狩で捕らえた獲物もさばかれて振舞われたり、贈答品として用いられたりしました。鷹が捕らえた獲物の中では特に鶴が珍重されていました。江戸時代の豊かな鳥食文化もあわせてご紹介いたします。

第3章 鷹狩の場所と人々

江戸時代の鷹狩は鷹場と呼ばれる場所で行われます。関東では江戸城を中心に徳川将軍家、その周囲に御三家の鷹場が設けられました。また尾張藩内でも藩主の鷹場のほか附家老の成瀬家・竹腰家などの鷹場が設けられ、藩主や特定の家臣が、その中で鷹狩をすることが許されました。鷹場を管理することはその土地の支配にも関わる重要なことでした。

また、鷹狩は藩主一人ですることではなく、藩主の世話をする役人や村の人々、鷹匠をはじめとする鷹狩に必要な技術を持った様々な人々の関わりが不可欠でした。ここでは尾張藩の鷹場と鷹狩に関わった人々について紹介します。



尾張家御鷹場絵図



鷹狩絵巻 二巻の内 上巻(部分)
徳川林政史研究所蔵

展覧会関連企画



◆ごまきち氏のマンガパネル

企画展「鷹狩」の開催にあたり、現在も鷹狩をされている、ごまきち氏にご協力いただきました。展覧会会期中、名古屋市蓬左文庫ガイダンスホールでは、ごまきち氏に描いていただいた鷹狩にまつわるマンガなどをお楽しみいただけます。

【ごまきち】

タカと生き、描く。愛知県在住。著書に『鷹の師匠、狩りのお時間です1・2』（星海社 COMICS）。

Twitter：@ outesama

◆学芸員の見どころトーク

展覧会で特にご覧いただきたいポイントや、企画構成する上でこだわったポイントなど、担当学芸員ならではの視点で見どころをお話しします。

講師： 当館学芸員 板谷寿美

日時： 2022年11月20日（日） 午後2時～午後2時30分（開場：午後1時30分）

定員： 60名 ※当日会場にて先着順・入館者聴講自由

会場： 講堂

◆土曜講座 「史料からひもとく尾張徳川家その2－鷹狩の世界－」

講師： 当館学芸員 板谷寿美

日時： 2022年11月26日（土） 午後1時30分～3時（開場：午後1時）

定員： 60名

※事前申し込み制で既に満席。空席が出た場合のみ当日先着で受講可。

会場： 講堂

受講料： 800円（入館料別途必要）

視聴者・読者プレゼント提供

企画展「鷹狩」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。

画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会のご招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。

お問い合わせ 取材は随時お受けいたします



[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL：052-935-6262（10時～17時受付）

052-935-8222（営業時間外受付）

FAX：052-935-6261

企画展 鷹狩

広報画像申請書 使用期間：～2022年12月15日



①雪中鷹捉搦鶴図 狩野養川院惟信筆
江戸時代 18～19世紀
徳川美術館蔵

②鷹狩図屏風 六曲一双の内 左隻
江戸時代 18世紀
斉藤芳克氏寄贈
徳川美術館蔵



③尾張家御鷹場絵図
江戸時代 18世紀
徳川美術館蔵



④鷹図屏風 八曲一双の内 右隻 神谷晴真筆
江戸時代 19世紀
徳川美術館蔵

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

[ご利用にあたっての注意事項]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミング、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市中区徳川町1017

TEL: 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX: 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp